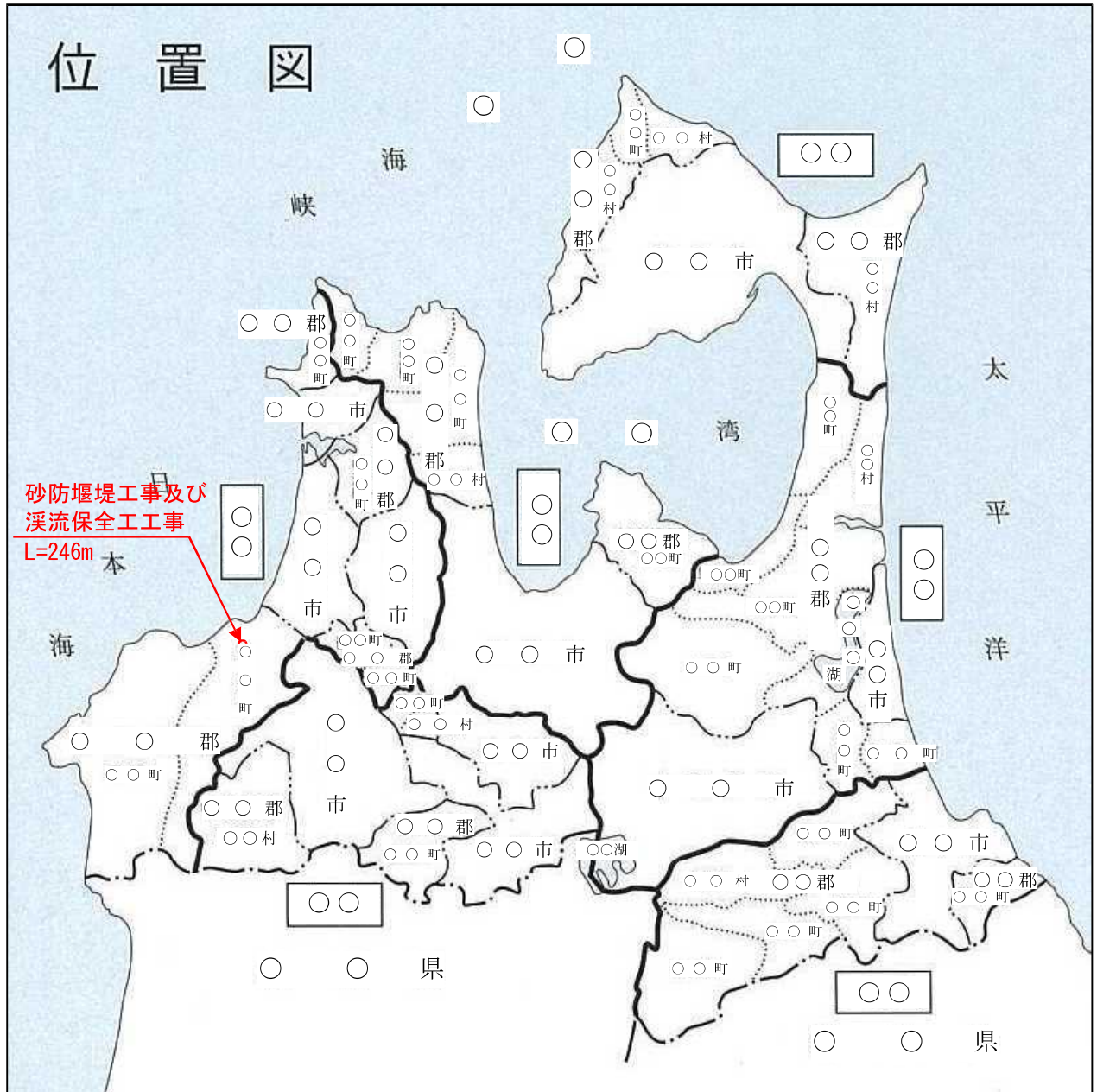


添付書類第1号

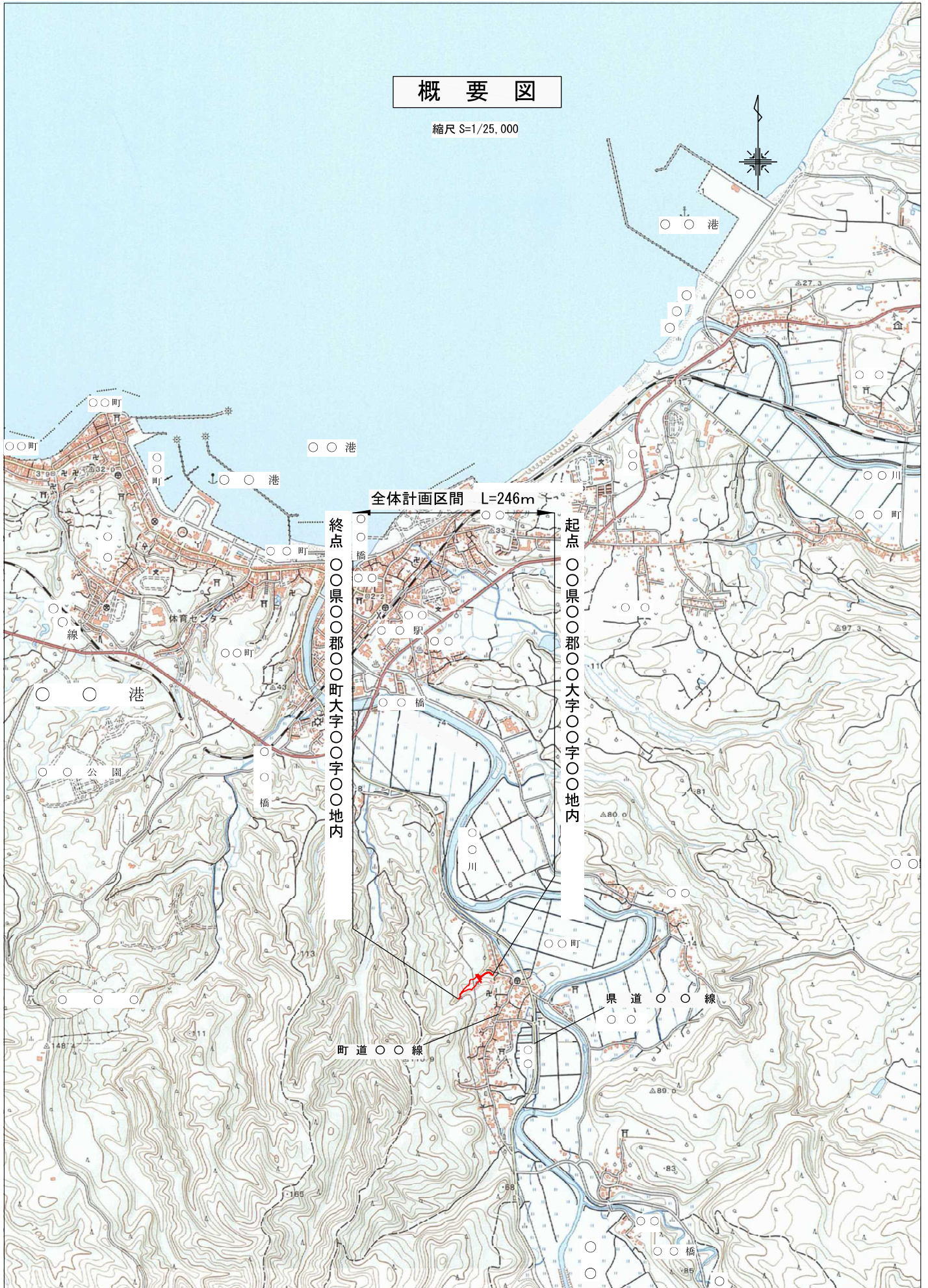
# 1 事業計画書

## 二級河川〇〇川水系〇〇総合流域防災事業



概要図

縮尺 S=1/25,000



## 1 事業計画の概要

二級河川〇〇川水系〇〇（以下「本溪流」という。）は、〇〇県〇〇郡〇〇町大字〇〇地内に位置する延長 440m、流域面積 0.064 km<sup>2</sup>の小溪流であり、下流の水路を経て、二級河川〇〇川の左岸側へ合流している。

本溪流の平均河床勾配は、下流から中流域では 1/20 から 1/10 と比較的緩やかな勾配を呈する溪流ではあるが、上流に移行するにつれて急峻な V 字谷地形を呈し、尾根部では急勾配な斜面になることから、本溪流の流域は、平成〇〇年〇〇月〇〇日に土石流危険溪流として位置付け、平成〇〇年〇〇月〇〇日には土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（平成 12 年法律第 57 号）に基づく土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定された。さらに、平成〇〇年〇〇月〇〇日には、砂防法（明治 30 年法律第 29 号）に基づく砂防指定地の指定を受けている。

〇〇県においては、645 箇所 of 要対策土石流危険溪流が存在し、その整備率は、平成〇〇年度末現在で 23.2% と低い状況である。また、平成〇〇年〇〇月の台風〇〇号によって、〇〇地方を中心に土石流、がけ崩れによる〇〇箇所の土砂災害が発生し、本溪流の存する〇〇町においても 2 箇所で土砂災害が発生している。

〇〇川流域の土石流危険溪流は 11 溪流あり、治山施設 5 溪流及び砂防施設 1 溪流の 6 溪流について整備が完了しているが、県としては、保全人家が集中する〇〇地区の〇〇、〇〇及び〇〇の土石流対策を早期に実施し、民生安定に向けた施策が急務となっているものである。

また、本溪流の流域には〇〇層の塊状シルト岩が広く分布し、その表層には火山噴出物に起因すると考えられる不安定土砂が厚く堆積している。塊状シルト岩は雨水が浸透しにくいため、豪雨時には塊状シルト岩の上層部で山腹崩壊が起りやすい状況の中で、経年の溪岸浸食による複数の崩壊地跡や倒木が確認される状況である。よって本溪流は不安定土砂や立木が豪雨時には土石流となって流出する危険性が非常に高い状態となっているものである。

本溪流の下流部には、人家や耕地及び町道〇〇中央線等の公共施設が存在することから、これらを土石流の危険から守るため、早急に恒久的な対策を講ずる必要性に迫られているものである。

このような状況に対処するため、100 年超過確率日雨量（198.6mm/日）の豪雨時に、本溪流において発生すると予測される氾濫面積が 2.7ha にも及ぶ土石流（計画流出量 1,955m<sup>3</sup>）を捕捉及び抑制することを目的として、〇〇県〇〇郡〇〇町大字〇〇字〇〇地内から同町大字〇〇字〇〇地内までの延長 246m の区間を全体計画区間とする〇〇総合流域防災事業（砂防堰堤工事及び溪流保全工工事）（以下「本件事業」という。）を計画したものであり、砂防堰堤 1

基及び溪流保全工延長 80.6mを設置するものである。なお、砂防法施行規程第8条の3に基づく砂防工事の全体計画書について、平成〇〇年〇〇月〇〇日付けで国土交通大臣の認可を受け、平成〇〇年度から本件事業に着手しているところである。

本件事業の完成により、100年超過確率日雨量（198.6mm/日）の豪雨時における土石流（計画流出量 1,955m<sup>3</sup>）を捕捉及び抑制することが可能となることから、本溪流の下流部に存する地域住民の生命、財産及び公共施設の保全に寄与するものである。

本件事業は、砂防法第1条に基づく砂防設備を建設する事業であり、土地収用法（昭和26年法律第219号）第3条第3号に該当する事業である。

本件事業の計画諸元は、次のとおりである。

〇〇砂防設備一覧表

溪流名	設備名	設備効果	備考
〇〇	〇〇砂防堰堤	土石流捕捉及び抑制	新設 計画流出量 1,955m <sup>3</sup>
砂防堰堤 1 基（計画捕捉及び抑制量 2,022m <sup>3</sup> ）・溪流保全工			

(1) 位置

〇〇県〇〇郡〇〇町大字〇〇字〇〇及び字〇〇地内

(2) 形式

不透過型重力式コンクリート堰堤

(3) 計画諸元

(ア) 流域面積 0.064km<sup>2</sup>

(イ) 最大雨量 198.6mm/日（100年超過確率日雨量）

(ウ) 土石流ピーク流量 20.0m<sup>3</sup> /sec

(エ) 計画流出量 1,955m<sup>3</sup>（計画流出土砂量：1,920m<sup>3</sup>、

計画流出流木量：35m<sup>3</sup>）

(4) 構造諸元

- (ア) 堤高 5.0 m
- (イ) 堤長 51.5 m
- (ウ) 天端幅 3.0 m
- (エ) 水通幅 3.0 m
- (オ) 計画捕捉及び抑制量 2,022 m<sup>3</sup>
- (カ) 前庭保護工
- |     |          |         |
|-----|----------|---------|
| 水叩き | L=9.0 m  | t=1.1 m |
| 垂直壁 | L=33.0 m | H=5.2 m |
| 水通幅 | 3.0 m    |         |
| 天端幅 | 1.1 m    |         |
- (キ) 溪流保全工（ブロック積護岸） 80.6 m

2 事業の開始及び完成の時期

開始の時期 平成〇〇年〇〇月

完成の時期 平成〇〇年〇〇月

3 事業に要する経費及びその財源

(1) 経費

(単位：百万円)

分 費 目	区 全体計画区間	年度別内訳		
		平成〇〇年度まで	平成〇〇年度	平成〇〇年度以降
工 事 費	170	0	37	133
用地費及び補償	10	8	1	1
そ の 他	60	48	2	10
計	240	56	40	144

(2) 財源

	平成〇〇年度		平成〇〇年度から平成〇〇年度	
	国土交通省	〇〇県	国土交通省	〇〇県
負担率	1/2	1/2	1/2	1/2
会計名	一般会計	一般会計	一般会計	一般会計
款	—	土木費	—	土木費
項	地域自主戦略推進費	河川海岸費	社会資本総合整備事業費	河川海岸費
目	地域自主戦略交付金	河川改良費	防災・安全社会資本整備交付金	河川改良費

4 事業の施行を必要とする公益上の理由

本溪流の流域には〇〇層の塊状シルト岩が広く分布し、その表層には火山噴出物に起因すると考えられる不安定土砂が厚く堆積している。塊状シルト岩は雨水が浸透しにくいため、豪雨時には塊状シルト岩の上層部で山腹崩壊が起りやすい状況の中で、経年の溪岸浸食による複数の崩壊地跡や倒木が確認される状況である。よって本溪流は不安定土砂や立木が豪雨時には土石流となって流出する危険性が非常に高い状態となっているものである。

〇〇県においては、平成〇〇年〇〇月の台風 〇〇号によって、〇〇地方を中心に土石流、がけ崩れによる〇〇箇所の土砂災害が発生し、本溪流の存する〇〇町においても2箇所で土砂災害が発生している（表－1参照）。

表－1 平成〇〇年〇〇月台風〇〇号土砂災害関係被害状況

番号	市町村名	箇所名	被害形態	流出土砂	人的被害	物的被害	避難状況
1	〇〇町	〇 〇	土石流	500m <sup>3</sup>	0人	2棟	1世帯2
2	〇〇市	〇 〇	土石流	10,000m <sup>3</sup>	0人	0棟	—
3	〇〇町	〇 〇区域	がけ崩れ	300m <sup>3</sup>	0人	2棟	1世帯3
4	〇〇町	〇 〇区域	がけ崩れ	10m <sup>3</sup>	0人	0棟	—
5	〇〇町	〇 〇区域	がけ崩れ	10m <sup>3</sup>	0人	0棟	—
6	〇〇市	〇 〇区域	がけ崩れ	500m <sup>3</sup>	0人	1棟	1世帯2
7	〇〇市	〇 〇区域	がけ崩れ	500m <sup>3</sup>	0人	2棟	1世帯2
8	〇〇市	〇 〇区域	がけ崩れ	50m <sup>3</sup>	0人	0棟	2世帯9
9	〇〇町	〇 〇区域	がけ崩れ	10m <sup>3</sup>	0人	1棟	—
10	〇〇町	〇 〇区域	がけ崩れ	10m <sup>3</sup>	0人	0棟	—
11	〇〇市	〇 〇区域	がけ崩れ	500m <sup>3</sup>	0人	0棟	1世帯
12	〇〇市	〇 〇区域	がけ崩れ	50m <sup>3</sup>	0人	1棟	1世帯6
13	〇〇市	〇 〇区域	がけ崩れ	500m <sup>3</sup>	0人	2棟	1世帯2

※〇〇県河川砂防課調べ

今後も局地的な集中豪雨の発生が懸念されており、本溪流でも早急な土砂災害対策が必要不可欠となっている。

本件事業による砂防堰堤がない状態で計画流出量と同規模の土石流が発生した場合の土石流災害予想区域は、〇〇県が作成した「平成〇〇年度土石流災害に関する基礎調査」によると、土石流は本溪流沿いに氾濫しながら流れ、保全対象となる人家連たん地と町道〇〇線を直線的かつ扇状に拡散しつつ氾濫して流下し、最下流の農地で広く氾濫し、その被害は人家12戸、耕地0.08ha、町道〇〇線90m、氾濫面積2.7haと想定されている（表－2参照）。

表－2 氾濫区域内における想定被害

	想定被害	備考
氾濫面積	2.7ha	
人家	12戸	
耕地	0.08ha	
町道	90m	町道〇〇線

※氾濫区域内における想定被害は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律に基づく平成〇〇年度土砂災害防止に関する基礎調査（土石流区域調書）による。



本件事業の完成により、100年超過確率日雨量の豪雨時における土石流（計画流出量 1,955 m<sup>3</sup>）を捕捉及び抑制することが可能となることから、本溪流の下流部に存する地域住民の生命、財産及び公共施設の保全に寄与するものである。

なお、本件事業が生活環境等に与える影響については、本件事業は環境影響評価法（平成9年法律第81号）及び〇〇県環境影響評価条例施行規則（平成〇〇年〇〇県規則第〇〇号）に定められた環境影響評価の対象事業には該当しないが、本件事業が施行される区域の近傍には住居等の保全対象が存在すること、また、豊かな自然環境が存在する地域であることから、環境影響評価法等に準じて、騒音、振動等の影響について平成〇〇年〇〇月から〇〇月にかけて環境影響調査を実施している。

その結果によると、いずれの項目も規制基準を満足するとされている。

また、上記環境影響調査によると、本件事業地及びその周辺の土地において、動物については、文化財保護法（昭和25年法律第214号）における特別天然記念物である〇〇〇〇、環境省レッドリストに絶滅のおそれのある地域個体群として掲載されている〇〇・〇〇系のホンダザル及び〇〇県レッドデータブックに希少野生生物として掲載されているニッコウムササビの生息が確認されている。カモシカ、ニッコウムササビ及びホンダザルは、本件事業地の上流部を迂回できるため生息環境に与える影響は小さいとされている。

植物については、環境省レッドリストに絶滅危惧Ⅱ類として掲載されているノダイオウが確認されている。ノダイオウの生息地は本件事業の予定地内であるため、直接的な影響を受けることになるが、周辺地へ移植する等の適切な保全措置を講じることにより問題ないとされており、工事着手前に移植を実施するものである。

このほか、本件事業地の周辺には、文化財保護法による周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しておらず、保護のために特別な措置を講ずべき文化財は見受けられない。

なお、本件事業の早期完成を求める声は強く、〇〇町長から、本件事業の整備促進を強く要望されているところである。

以上のとおり、本件事業の社会的、経済的に及ぼす効果は著しく、その公益性は極めて大きいものである。

5 収用又は使用の別を明らかにした事業に必要な土地等の面積、数量等の概数並びにこれらを必要とする理由

(1) 事業に必要な土地の面積

イ 収用の部分 (単位：㎡)

地 目	面 積
宅 地	150
水 路 敷	329
道 路 敷	9
畑	422
山 林	1,752
雑 種 地	327
原 野	965
合 計	3,954

ロ 使用の部分

(単位：㎡)

地 目	面 積
山 林	71
原 野	5
合 計	76

(2) 起業地内にある主な物件の数量

なし

(3) これらを必要とする理由

イ 収用の部分

これらの土地は、前記事業計画の概要で述べたとおり、本件事業を施行するために必要最小限の土地である。

ロ 使用の部分

使用する土地は、本件事業の施行に伴い、床掘工事のために必要な用地として、工事期間中一時的に使用するものであり、必要最小限の土地である。

6 起業地等を当該事業に用いることが相当であり、又は土地等の適正かつ合理的な利用に寄与することになる理由

(1) 砂防堰堤の位置の決定

本件事業は、100年超過確率日雨量（198.6mm/日）の豪雨時における土石流を捕捉及び抑制することを目的とした砂防設備を設置し、本溪流の下流部に存する地域住民の生命、財産及び公共施設の保全を目的とするものである。

本件事業を施行するにあたり、砂防堰堤の位置の選定については、砂防事業の目的と本溪流周辺の地形状況を勘案し、以下の要件について、社会的、技術的及び経済的な観点から検討を行い、最も合理的な位置を選定したものである。

イ 位置選定における要件

- ・ 保全対象の上流地点であり、流下区間・堆積区間の位置であること。
- ・ 土石流を効果的に捕捉できる位置であること。
- ・ 周辺環境へ及ぼす影響を抑えた位置であること。
- ・ 施工性に優れ、技術的に問題がない位置であること。
- ・ 費用が経済的であること。

ロ 起終点の決定

① 起点部

起点は、計画基準点であるとともに、既設水路と接続する溪流保全工下流端の地点とした。

② 終点部

終点は、計画堆砂域の上流端の地点とした。

ハ 位置の選定

砂防堰堤の位置については、上記イの要件に基づき、次の3案について検討を行い決定したものである。

第1案：最下流位置案（申請案）

第2案：中間位置案

第3案：最上流位置案

①第1案：最下流位置案（申請案）

本案は、地形的な狭窄部に堰堤を設置するものであり、3案中、最も下流に位置する案である。また、狭窄部に位置していることから背後スペースが広く、土石流を効率的に捕捉及び抑制することができるほか、本溪流の河床勾配が緩くなる変化点付近であるため、土石流を捕捉し易い位置である。

用地取得面積は、溪流の下流に堰堤を設置することから堆砂範囲が多くなり3案中最も多い。施工性については、機材運搬に利用する町道〇〇中央線に最も近いことから、工事用道路の距離が短く、溪流保全工の延長も短いなど最も優れている。経済性については、溪流保全工及び工事用道路の工事量が少ないことから総事業費において最も低く抑えられている案である。

②第2案：中間位置案

本案は、第1案と第3案の概ね中間の位置に砂防堰堤を設置する案である。補助基準点の位置は、第1案より上流となるが、溪流保全工の設置により土石流の発生を抑えることができるため、第1案と同様に土石流整備率は100%となる。

用地取得面積は、溪流の中流域に堰堤を整備することから、堆砂範囲は中位となっている。施工性については、第1案より工事用道路及び溪流保全工の延長があることから中位となっている。経済性については、掘削量、堤体量が多いことから最も劣る案である。

③第3案：最上流位置案

本案は第2案の上流に砂防堰堤を設置する案である。補助基準点の位置は最も上流となるが、溪流保全工の設置により、土石流整備率は他の2案と同様に100%となる。

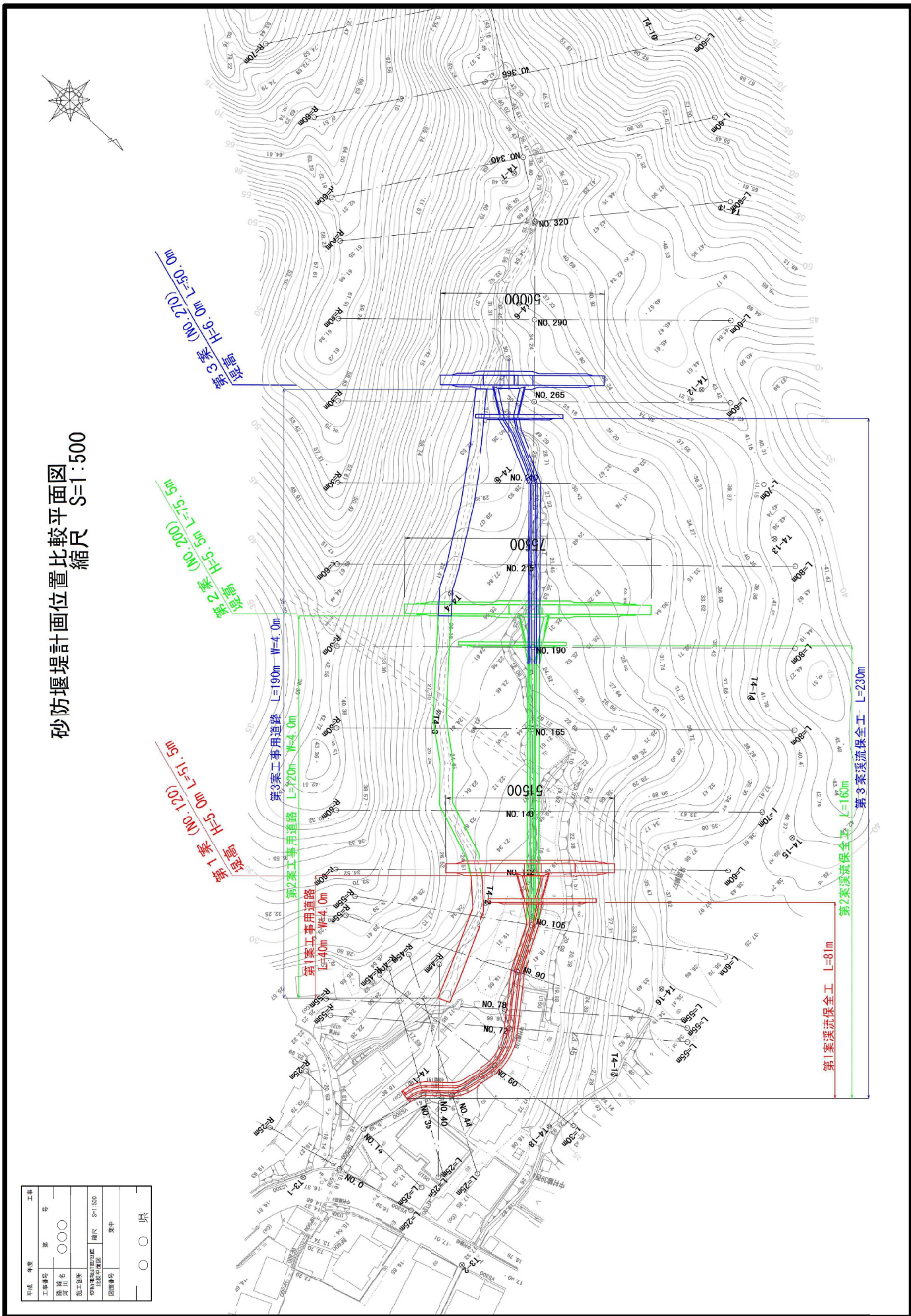
用地取得面積は、溪流の上流に堰堤を設置することから、堆砂範囲が少なく3案中最も少ない。施工性については、機材運搬に利用する町道〇〇中央線から最も遠いことから、工事用道路の距離が長く、溪流保全工の延長も長いことなどから施工期間もかかるなど最も劣る案となっている。経済性については、第2案より掘削量、堤体量が少ないことから中位の案となっている。

以上の3案について総合的に比較した結果、第1案（申請案）が社会的、技術的及び経済的諸条件において最も合理的であると判断されることから、本件事業の事業計画として採用したものである。

以上のとおり、起業地を本件事業に用いることは、土地の適正かつ合理的な利用に寄与するものである。

砂防堰堤配置位置選定比較表

	第1案 最下流位置案(申請案)	第2案 中間位置案	第3案 最上流位置案																																																																																																																								
計画目的	土石流による土砂災害を防止することによって、下流の人畜、町道○○○を保全し安全安心な地域社会を実現する																																																																																																																										
計画概要	・地形的に放棄地となる位置 ・補助基準点付近で、保全対象家屋から垂直壁までの距離を20m以上確保 保した位置	・第1案と第3案の概ね中間の位置 ・地形的に左右岸が離れているので施設延長が長くなる	・堰堤が設置可能な最上流の位置 ・河床勾配が急峻で掘削域(1/2~2/3勾配間)が多く確保可能な位置 ・上流域の崩壊地形に対する打止効果(発生抑制)が期待できる位置																																																																																																																								
堰堤形式	不透透型コンクリート堰堤	不透透型コンクリート堰堤	不透透型コンクリート堰堤																																																																																																																								
流木補捉 堰堤高・堤長	流木補捉工の設置なし(計画補捉土砂量の2%以下) 堤高H=5.00m 堤頂長L=51.50m	流木補捉工の設置なし(計画補捉土砂量の2%以下) 堤高H=5.50m 堤頂長L=75.50m	流木補捉工の設置なし(計画補捉土砂量の2%以下) 堤高H=6.00m 堤頂長L=50.00m																																																																																																																								
概要図																																																																																																																											
計画流出量	1,955m <sup>3</sup> (計画流出土砂量1,920m <sup>3</sup> +計画流出土量35m <sup>3</sup> )	1,955m <sup>3</sup> (計画流出土砂量1,920m <sup>3</sup> +計画流出土量35m <sup>3</sup> )	1,955m <sup>3</sup> (計画流出土砂量1,920m <sup>3</sup> +計画流出土量35m <sup>3</sup> )																																																																																																																								
計画補捉・抑制量	2,022m <sup>3</sup> (計画補捉量1,209m <sup>3</sup> +計画発生抑制量813m <sup>3</sup> )	1,544m <sup>3</sup> (計画補捉量904m <sup>3</sup> +計画発生抑制量640m <sup>3</sup> )	933m <sup>3</sup> (計画補捉量488m <sup>3</sup> +計画発生抑制量465m <sup>3</sup> )																																																																																																																								
土石流整備率	○ 土石流整備率=100%	○ 土石流整備率=100%	○ 土石流整備率=100%																																																																																																																								
安全性	○ 基礎部については塊状シルト岩に岩着させるものとして、風化・亀裂状況より根入れ2mを確保していることから、構造物の安定性は確保されている。	○ 基礎部については塊状シルト岩に岩着させるものとして、風化・亀裂状況より根入れ2mを確保していることから、構造物の安定性は確保されている。	○ 基礎部については塊状シルト岩に岩着させるものとして、風化・亀裂状況より根入れ2mを確保していることから、構造物の安定性は確保されている。																																																																																																																								
経済性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>単価(円)</th> <th>金額(万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>2,279</td> <td>300</td> <td>684</td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>876</td> <td>700</td> <td>613</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>1,304</td> <td>14,000</td> <td>19,096</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td>1,035</td> <td>5,600</td> <td>5,796</td> </tr> <tr> <td>浸流保全工</td> <td>m</td> <td>81</td> <td>60,000</td> <td>4,860</td> </tr> <tr> <td>工事用道路</td> <td>m</td> <td>40</td> <td>50,000</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>33,049</td> </tr> </tbody> </table>	工種	単位	数量	単価(円)	金額(万円)	掘削	m <sup>3</sup>	2,279	300	684	埋戻し	m <sup>3</sup>	876	700	613	コンクリート	m <sup>3</sup>	1,304	14,000	19,096	型枠	m <sup>2</sup>	1,035	5,600	5,796	浸流保全工	m	81	60,000	4,860	工事用道路	m	40	50,000	2,000	合計				33,049	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>単価(円)</th> <th>金額(万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>3,093</td> <td>300</td> <td>928</td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>1,194</td> <td>700</td> <td>836</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>1,914</td> <td>14,000</td> <td>26,796</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td>1,358</td> <td>5,600</td> <td>7,605</td> </tr> <tr> <td>浸流保全工</td> <td>m</td> <td>160</td> <td>60,000</td> <td>9,600</td> </tr> <tr> <td>工事用道路</td> <td>m</td> <td>120</td> <td>50,000</td> <td>6,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>51,765</td> </tr> </tbody> </table>	工種	単位	数量	単価(円)	金額(万円)	掘削	m <sup>3</sup>	3,093	300	928	埋戻し	m <sup>3</sup>	1,194	700	836	コンクリート	m <sup>3</sup>	1,914	14,000	26,796	型枠	m <sup>2</sup>	1,358	5,600	7,605	浸流保全工	m	160	60,000	9,600	工事用道路	m	120	50,000	6,000	合計				51,765	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>単価(円)</th> <th>金額(万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>2,508</td> <td>300</td> <td>752</td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>835</td> <td>700</td> <td>585</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>1,349</td> <td>14,000</td> <td>18,830</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td>975</td> <td>5,600</td> <td>5,460</td> </tr> <tr> <td>浸流保全工</td> <td>m</td> <td>230</td> <td>60,000</td> <td>13,800</td> </tr> <tr> <td>工事用道路</td> <td>m</td> <td>190</td> <td>50,000</td> <td>9,500</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>48,927</td> </tr> </tbody> </table>	工種	単位	数量	単価(円)	金額(万円)	掘削	m <sup>3</sup>	2,508	300	752	埋戻し	m <sup>3</sup>	835	700	585	コンクリート	m <sup>3</sup>	1,349	14,000	18,830	型枠	m <sup>2</sup>	975	5,600	5,460	浸流保全工	m	230	60,000	13,800	工事用道路	m	190	50,000	9,500	合計				48,927
工種	単位	数量	単価(円)	金額(万円)																																																																																																																							
掘削	m <sup>3</sup>	2,279	300	684																																																																																																																							
埋戻し	m <sup>3</sup>	876	700	613																																																																																																																							
コンクリート	m <sup>3</sup>	1,304	14,000	19,096																																																																																																																							
型枠	m <sup>2</sup>	1,035	5,600	5,796																																																																																																																							
浸流保全工	m	81	60,000	4,860																																																																																																																							
工事用道路	m	40	50,000	2,000																																																																																																																							
合計				33,049																																																																																																																							
工種	単位	数量	単価(円)	金額(万円)																																																																																																																							
掘削	m <sup>3</sup>	3,093	300	928																																																																																																																							
埋戻し	m <sup>3</sup>	1,194	700	836																																																																																																																							
コンクリート	m <sup>3</sup>	1,914	14,000	26,796																																																																																																																							
型枠	m <sup>2</sup>	1,358	5,600	7,605																																																																																																																							
浸流保全工	m	160	60,000	9,600																																																																																																																							
工事用道路	m	120	50,000	6,000																																																																																																																							
合計				51,765																																																																																																																							
工種	単位	数量	単価(円)	金額(万円)																																																																																																																							
掘削	m <sup>3</sup>	2,508	300	752																																																																																																																							
埋戻し	m <sup>3</sup>	835	700	585																																																																																																																							
コンクリート	m <sup>3</sup>	1,349	14,000	18,830																																																																																																																							
型枠	m <sup>2</sup>	975	5,600	5,460																																																																																																																							
浸流保全工	m	230	60,000	13,800																																																																																																																							
工事用道路	m	190	50,000	9,500																																																																																																																							
合計				48,927																																																																																																																							
施工性	○ 町道1番も近く、工事用道路及び浸流保全工の延長が短く、施工性に優れる。	△ 第1案より工事用道路及び浸流保全工の延長が長く、施工性に劣る。	△ 町道から遠く、工事用道路及び浸流保全工の延長が最も長く、施工性に最も劣る。																																																																																																																								
用地取得面積	○ A=4,030m <sup>2</sup>	△ A=2,900m <sup>2</sup>	○ A=2,400m <sup>2</sup>																																																																																																																								
施工時の課題	重要種の動植物や埋蔵文化財は確認されていないが、下流域への濁水流出防止対策に万全を期す必要があり、工事施工時の騒音、振動にも十分配慮した施工が必要である。 用地取得面積は、浸流の下流に堰堤を設置することから堆砂範囲が多くなり3案中最も多い。施工性については、機材運搬に利用する町道○○○の延長も近いことから、工事用道路の距離が短く、浸流保全工の延長も短いなど最も優れている。経済性については、浸流保全工及び工事用道路の工事が少ないことから従事要員において最も低く抑えられている等、総合的に勘案すると最も合理的な案である。	重要種の動植物や埋蔵文化財は確認されていないが、工事施工時の騒音、振動にも十分配慮した施工が必要である。 用地取得面積は、浸流の中流域に堰堤を整備することから、堆砂範囲は中位となっている。施工性については、第1案より工事用道路及び浸流保全工の延長があることから中位となっている。経済性については、掘削量、埋体量が多いことから最も劣る等、総合的に勘案して合理的な案とはいえない。	重要種の動植物や埋蔵文化財は確認されていないが、工事施工時の騒音、振動にも十分配慮した施工が必要である。 用地取得面積は、浸流の上流に堰堤を設置することから、堆砂範囲が少なく3案中最も少ない。施工性については、機材運搬に利用する町道○○○の延長も遠いことから、工事用道路の距離が長く、浸流保全工の延長も長いことなどから施工期間もかかるなど最も劣る案となっている。経済性については、第2案より掘削量、埋体量が少くないことから中位である等、総合的に勘案して合理的な案とはいえない。																																																																																																																								
総合評価	◎	△	×																																																																																																																								



砂防堰堤計画位置比較平面図  
縮尺 S=1:500

名称	工事
工事番号	
設計者	〇〇〇
施工場所	
資料名	縮尺 S=1:500
作成日	真中
図面番号	〇〇 帙